

# 少人数指導部会研究計画

## 1. 児童の実態

### (1) 第1学年

入学から約1ヶ月が過ぎ、算数の教科書を開いたり算数セットを準備したりすることにだいぶ慣れてきた。どの児童も意欲的に、おはじきやブロックを使った簡単な操作活動等の学習に喜んで取り組んでいる。しかし、数字を書くことや読むこと、おはじきやブロックを操作することには個人差が見られる。

ティームティーチングによる週3回の授業をほとんどの児童が楽しみにしている。その理由として、「たくさん見てもらえる」「詳しく見てもらえる」「わからないときに1対1で教えてもらえる」などと答えている。

### (2) 第2学年

児童の実態は、算数に関する意識調査と学力に関する調査結果(教研式CRT-)の両面から捉えた。

#### 算数に関する意識調査より

調査は、2年生になって学んだ時計の読み方や簡易グラフの作成、たし算の筆算の学習を通してどう感じているかという観点で行った。その結果、算数を「好き」と答えた児童が66%、「嫌い」と答えた児童は22%、「どちらでもない」と答えた児童は12%だった。概ね算数の学習に対して興味関心を示している児童が多い。

5月から導入した2人の指導者による少人数学習(クラスを等質グループに2分割したもの)に対する意識調査では、ほとんどの児童が好意的にとらえている。その理由として児童は、「静かに集中して学習できるので良い」「早く見てもらえるので勉強がたくさんできる」「違う部屋で勉強するのが楽しい」などと答えている。

#### 学力に関する調査結果より

総合的な算数の力は、全国得点を下回っている。領域別で見ると、「数と計算」では、全国得点率をやや上回るが、「量と測定」「図形」では、全国得点率を下回っている。また、上位群と下位群の得点分布に大きな開きがある。

## 2. 研究の方向性

### (1) 学習形態(少人数指導の流れ)

#### ・第1学年

ティームティーチング体制の指導から、クラス内等質2分割少人数指導に移行していくことで個に応じた指導を試みる。

#### ・第2学年

クラス内等質2分割少人数指導から、クラス内習熟度別2グループ指導、学年内習熟度別5グループ指導に移行していくことで個に応じた指導を試みる。

### (2) 授業の質的改善

・指導上の共通のポイントを学年部全体で話し合い、最も効果的な指導法を探りながら統一見解を持って指導にあたる。クラスや担任が毎年替わる本校では、教師によって指導のポイントに違いがあると、進級後の児童の戸惑いが懸念されるので、なるべくそれを少なくしたいと考えている。

(3) ボランティアティーチャーの活用

・第1学年

学年のまとめの学習の時期に活用し，クラス内等質2分割少人数指導の効果を高める。

・第2学年

各単元の習熟の段階で活用し，少人数指導の効果を高める。

3. 研究計画

月	内 容	備 考
4	1年T・T指導開始	
5	2年等質2分割少人数指導開始 児童の実態調査・研究計画の作成 2年指導案作成 研究全体会 指導案検討会	2年BT依頼
6	指導案検討会 【指】 研究全体会 2年研究授業	「ひき算の筆算」
10	1年等質少人数指導開始 1年指導案作成・検討会 2年クラス内習熟度別指導開始	
11	1年研究授業	「たし算」
12	2年学年内習熟度別指導開始（最終単元で試みる）	
1	研究のまとめ	1年BT依頼
2	CRTテスト	
3	2年学年内習熟度別グループ編成決定	次年度準備

# 習熟度別部会研究計画

## 1. 児童の実態

G1 グループ	学習態度，学習習慣が身に付いており，意欲的に学習に取り組む。技能面での能力の高さが感じられ，自己評価及び相互評価をする力も備わっている。C R T 検査の伸び率が低い，積極的に質問したり発表したりしようとする児童の割合が低い，などが今後の課題といえる。
G2 グループ	グループ内の個々の能力に大きな違いは感じられないが，計算処理の速さに違いがある。学習内容は理解できるが，定着のための振り返り学習が必要である。また，発展・応用問題に対して自分で解決する力が育っていない。継続して実態把握をしていくことが必要である。
G3 グループ	昨年度に比べ，基礎が定着してきた児童が増え，授業態度も身に付いてきた。単位時間内で概ね理解が可能でも，時間経過による定着度が低い児童がほとんどである。個人差が大きく，常に個別指導を必要とする。学年によっては，特別支援教育を必要とする児童もいる。

## 2. 研究の方向性

G1 グループ	<p>&lt;基礎・基本をさらに広げ，深める学習を目指すために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自ら学び考えることができるような教材の選択をしたり学習場面を用意したりする指導の工夫</li> <li>・児童が進んで取り組みたいと思えるような，知的なおもしろさが感じられる指導の工夫</li> <li>・発展的な学習を通して算数を学ぶ楽しさと充実感を味わえるような単元構成</li> <li>・人数が多いG1グループの児童の学習状況の適切な評価の工夫</li> </ul>
G2 グループ	<p>&lt;基礎・基本の定着を図るために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味，関心をより持たせるための発展問題の提示の工夫</li> <li>・思考力，応用力を高めるための指導の工夫</li> <li>・計算処理能力に違いがあるグループ内の単位時間ごとの評価の工夫</li> </ul>
G3 グループ	<p>&lt;個に応じた指導実現のために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の基礎となる部分の習得状況の的確な診断，把握の工夫</li> <li>・単位時間ごとの学習内容の習得チェックの工夫</li> <li>・一人一人の弱点を補うための，また学習内容の定着を図るための別メニュー学習を積極的に取り入れる。</li> </ul>

## 3. 研究計画

月	内 容	備 考
4	・研究計画立案	(授業実践) ↓
5	・第1回習熟度別部会 研究の方向性、研究授業、授業者決定 ・研究全体会 ・第1回指導案検討会	
6	・第2回指導案検討会 ・6/24：G1 提案授業（4年）・・・<学習指導訪問>	
7		
8		
9	・G2 提案授業（3年）	
10		
11	・G3 提案授業（5年）	
12		
1	・学習意欲に関する実態調査	
2	・C R T 検査実施・研究のまとめ	

# 教科担任部会研究計画

## 1. 児童の実態

### (1) スキル学習について

#### 国語

- ・スキルタイムの時間に国語では、「漢字の読みや書き，話すこと，聞くこと」を実践してきた。5年生レベルの漢字の読みと4年生レベルの漢字の書き取りまでを行い，8割以上の子どもたちが達成することができた。
- ・「話すこと，聞くこと」に関して，一人一人がスピーチ原稿を書き，暗証して分かりやすく伝える練習を繰り返してきた。少しずつ話すことに慣れ，話すことに対して抵抗感が少なくなってきたように思われる。また，スピーチを聞く側が漫然と聞くのではなく，チェックカードを活用し聞く耳を育てる指導を行ってきたところ，話し手が，聞き手を意識した話し方を工夫する姿が見られるようになってきた。
- ・表現力については，個性豊かに表現できる子どもがいる反面，集団の中でコミュニケーションする力がやや物足りない子が目立つ。

#### 算数

- ・前年度まで「割り算（第三類型）100問を7分以内に解くことができる」ことを目標に努力させてきたところ，約9割の子どもが達成することができた。年間を通して継続して実施してきたことで，計算力は着実に向上していると言える。
  - ・マス計算は，毎日継続することで，自分自身の記録の伸びが分かりどの子も進んで楽しみながら行っている様子を感じられた。
  - ・文章問題の解き方について，自分の考えを意欲的に説明しようとする子どもが限られている傾向が見られる。
- \* 国語や算数の基礎基本が身につく，学習内容の習得に結びついた。今後はこの二教科に限らず，他の教科での基礎基本の習得をめざし，授業の質的な改善を模索していく必要があると思われる。

### (2) その他教科の学習の様子について（基礎・基本に関して）

#### 社会

第6学年の歴史学習が始まり1ヶ月であるが，ここまでの学習内容に対する知識・理解は多くの児童において十分達成されている。ただ社会的思考・判断では若干物足りなさを感じる。「なぜ～なのだろうか。」という問いに対して，自分なりの仮説を立てることが苦手である。1年を通して特に歴史的事象への思考・判断力を鍛えるようにしたい。

#### 理科

- ・どのクラスも落ち着いており，学習に対しては真剣に取り組んでいる。
- ・観察・実験を行う際の基礎的な技能が十分身につけていない面が見られる。（用具や器具の基本的な扱い，安全面で必要な配慮事項など）
- ・知識・理解は備わっているが，科学的思考が落ちている。（実験結果から分かることをまとめたり，新しい関係を導いたり推察したりすることが苦手）
- ・予想の段階では，自分の体験や生活経験と結びつけながら考えさせ，根拠を明らかにするようにしている。

#### 音楽

- ・音楽に触れ楽しもうとする気持ちは育っているが，読譜に時間を要する
- ・リコーダーにつまづいている
- ・歌声をきれいしていこうということにあきらめて取り組まない児童が各学級に数名ずついる。

- ・友だちと一緒に歌う楽しさや音の重なりを楽しさを感じ味わう段階には至っていない。
- ・小アンサンブルを通してレパートリーを増やしていくこと、体全体を使ってリズム打ちをしたり、思い切って声を出す楽しさを味わったりすることを積み重ねていき、音楽の美しさを感じ取る感覚や能力を育てていきたい。

#### 図工

- ・彩色の基本技術に劣っている児童が各クラス5～6人いる。
- ・水彩道具がきちんと準備されていない。
- ・作業速度・完成速度が児童によって異なるので、完成期限をきって宿題・放課後の作業になる。(→意識のない児童・さぼる子は完成が遅い。)

#### 家庭

- ・調理や製作を楽しみにしている子は多いが、自分の生活を考えたときに”家庭の一員”という自覚がまだ芽生えていない児童が多い。お世話をしてもらうのが、当たり前という感覚でいる。自分ができることは進んで取り組み、さらに新しいことに挑戦していこうとする姿勢が足りない。
- ・家庭との連携を図りながらチャレンジカードを活用し、学んだことを実践して自分の生活を自分で管理していけるように高めていきたい。

#### 体育

- ・持久力に欠ける子がやや多く見られたので、持久走の練習に継続して取り組んだ。その結果同じペースで長い距離を走ることに意欲的に行い、持久力の向上につながった。
- ・器械運動が苦手な子が多い。跳び箱やマット運動の素地づくりの運動に継続して取り組む必要がある。

### 2. 研究の方向性

意識調査や実態調査により個々の児童の変容の把握  
 児童理解を深めるための一人一人の情報の共有化を図る  
 指導力の向上を図るための教材研究の取り組み方  
 学校としての支援体制の確立  
 通信表の作成  
 中学校との連携を図る

### 3. 研究計画

月	内 容	備 考
4	研究計画の作成	
5	教科担任制の先進校の情報収集，通信表の検討	
6	児童・保護者の意識調査の実施	
7	教科担任制の課題や問題点，改善策の検討	
8	意識調査や報告内容のまとめ	
9	1学期までの成果と課題についての報告（保護者に対して）	
10	授業研究	
11		
12	教科担任制の課題や問題点，改善策の検討	
1	次年度に向けての方向性の検討	
2	成果と課題についての報告（保護者に対して）	
3		

# 特別支援教育（在籍学級）部会研究計画

## 1. 児童の実態（WEB用 省略）

## 2. 研究の方向性

特別支援教育部在籍児童にとっての基礎・基本を、「生きる力」「身近な生活に実際活かせる力」と捉え、その力を確実に身につけさせるための指導法を工夫しながら、個に応じた授業の推進を図っていく。

基本的な生活習慣がまだ確立されておらず、生活経験（特に集団生活の経験）が乏しいという児童の実態から、「算数科」として研究に取り組むよりは、教科・領域を合わせた「生活単元学習」として推進していった方が良いと考え、以下の点に重点を置きながら授業の質的改善を図っていく。

- ・実態把握のための諸検査・調査の充実を図る。  
（引き継ぎのケースファイルとして蓄積・活用していけるような記録様式等の検討）
- ・長期・短期の個別目標を設定するにあたって、「保護者の願い」の聞き取り調査を実施する。
- ・合同生活単元に焦点をあて、児童の実態から必要な単元を精選し、年間配当する。
- ・各合同生活単元の指導計画作成において、全体目標の他に個別目標を設定したり、個別の課題に応じた指導の手だてを工夫しながら、次年度の指導にも活かせるような資料の蓄積をしていく。
- ・教師自身の質の向上を図るための研修会を実施する。
- ・在籍学級部としての組織作りおよび支援体制作りをしながら、情報交換の充実を図る。

## 3. 研究計画

月	内 容	備 考
4	研究計画の作成	
5	合同生活単元の年間配当表作成 合同生活単元学習を通して実態把握と情報交換をする	校外散策 買い物学習 季節的行事単元
6	実態調査の在り方を探る ・諸検査（発達検査・個別知能検査）等についての実技研修の実施 ・検査の実施 ・合同生活単元の年間計画配当の再検討	実技研修
7	個別課題の設定	
8	・実態表の項目の検討および実態表作成 ・「保護者の願い」聞き取り調査 ・I E P（個別指導計画）作成 のための研修	個別面談 研修
9	・長期目標・短期目標の設定	
10	合同生活単元学習を通して個に応じた授業の実践・推進をする	買い物学習 調理学習 校外学習など
11		
12	・計画（全体目標・個別目標の設定，課題に応じた支援の工夫） ・反省と問題点・改善策の検討	
1		
2	資料のまとめと次年度に向けての課題や方向性の検討	
3	研究のまとめ 次年度に向けての課題と「保護者の願い」聞き取り	個別面談

# 特別支援教育（通級指導）部会 研究計画

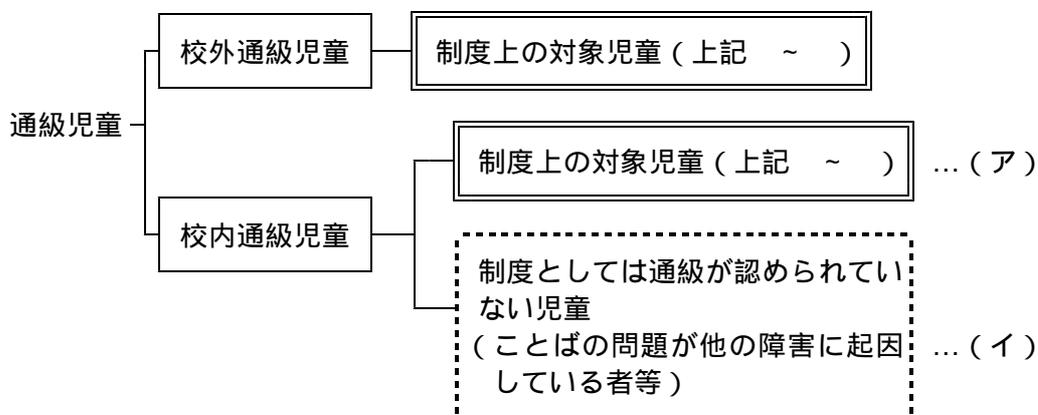
## 1. 通級指導教室（通級対象児）の実態

### （1）「通級による指導」の制度上の対象児童

通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする者で、以下の～に該当する者。

構音障害（発音の誤り）のある者  
吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者  
話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者  
その他これに準ずる者（これらの障害が他の障害に起因するものでない者に限る）

### （2）本校における通級児童



## 2. 研究の方向性

校内研究テーマ  
「一人一人がわかる喜びを味わい、自ら意欲を持って学ぶ児童の育成」  
～基礎・基本を確実に身に付けさせるための指導法の工夫を通して～



《個に応じた授業の推進》



個別指導の充実（個別支援指導の充実）



校内研究の中で、通級指導教室が目指すもの  
・通常の学級に在籍する、特別な支援を必要とする児童への、言語領域に関する効果的な個別指導の在り方を探る。

### 具体的な手だて

児童の実態調査

在籍している通常学級の中での児童の課題把握及び共有化

ア．保護者や在籍学級担任との話し合い

イ．在籍学級の授業参観

ウ．ことばの教室の授業参観

エ．「連絡ノート」の活用

在籍している通常学級での学習につながる指導内容の導入  
 ア．学習内容の確認  
 イ．必要に応じたりハーサルの学習の導入  
 ウ．発表の機会への配慮等  
 チェックリストの作成と検証  
 研究対象児童は，1.(2)の(ア),(イ)より各1名とする。

### 3. 研究計画

月	内 容	備 考
4～5 5～6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画立案，</li> <li>・個別の実態調査</li> <li>・課題の把握・共有化                (保護者・学級担任との話し合い，授業参観)</li> </ul>	左記以外にも学級担任との話し合い等は必要に応じて実施する。
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月中に第1回目のチェックリスト記入(学担・ことば)</li> <li>・1学期末の課題の把握・共有化                (保護者・学級担任との話し合い，授業参観)</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回目のチェックリスト記入(学担・ことば)</li> <li>・2学期末の課題の把握・共有化                (保護者・学級担任との話し合い，授業参観)</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回目のチェックリスト記入(学担・ことば)</li> <li>・研究のまとめ(次年度への課題を含む)</li> </ul>	